

リッジアイ、日本マイクロソフトと連携し、生成 AI と地球観測データを統合した 次世代プラットフォームの構築を開始

～Microsoft Planetary Computer Pro と Azure 基盤を活用し、 地球デジタルツインの実用化を加速～

AI・ディープラーニング技術のコンサルティングと開発を行う株式会社 Ridge-i（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：柳原 尚史、以下「リッジアイ」）は、生成 AI と地球観測データを組み合わせた革新的なプラットフォームの構築のため、日本マイクロソフト株式会社（以下「日本マイクロソフト」）との連携を開始しました。

▼背景と取り組みの概要

リッジアイは 2025 年 3 月、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（以下「JAXA」）と地球デジタルツイン研究に向けた AI の実証を発表しました。このプロジェクトでは、生成 AI に、JAXA Earth API、Google Earth Engine API、および JAXA の Web サイト（Earth-graphy、サテナビ）などの衛星データプラットフォームとリッジアイが有する衛星データ利用に関する知見を接続した対話型 AI プロトタイプを開発し、衛星解析技術に詳しくないユーザーでも、自然言語での質問により地球環境データの取得・解析が可能なシステムを実現しました。

この度、日本マイクロソフトとの連携により、JAXA との実証で培った技術基盤をさらに発展させ、Microsoft Planetary Computer Pro および Azure 基盤を活用した新たなプラットフォーム開発に着手します。これにより、日本国内での実績を基に、グローバル市場への展開を加速させます。

▼JAXA での実証成果

リッジアイが JAXA と共同で開発したプロトタイプは、以下のような成果を実現しています。

- 自然言語による衛星データ取得：「2020 年 1 月の関東の地表面温度の最大値を教えてください」という質問に対し、GCOM-C 衛星データを解析し、「約 12.8 度です」というテキストと図による返答を即座に提供。生成 AI を活用した、地球観測データの取得と解析で実証に成功

JAXA.G-Portal_GCOM-C.SGLI_standard.L3-LST.daytime.v3_global_daily LST 2020-01/01/~2020-01/01/

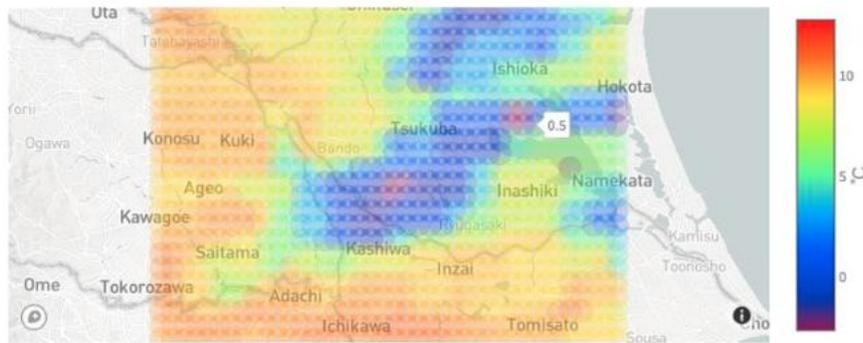


図 1：回答とともに取得した森林非森林、降雨量、地表面温度などのデータマップが表示される

- 衛星画像の直感的な取得：「2020年1月のシンガポール海域付近の様子は？」という質問から、該当地域の衛星画像を自動取得・表示

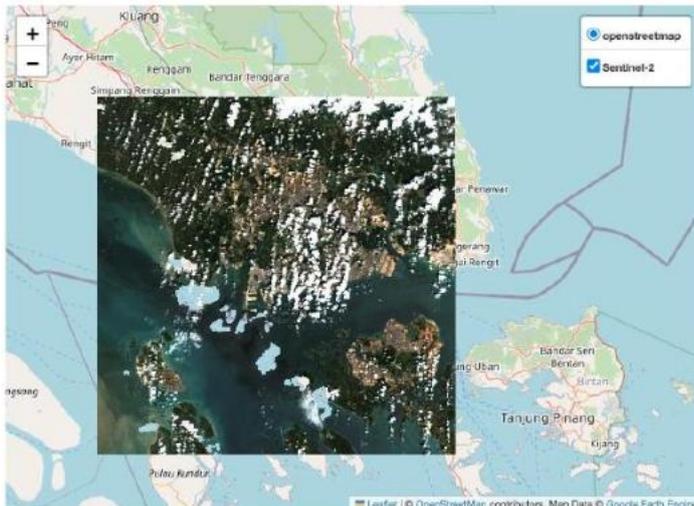


図 2：回答とともに取得した衛星画像

- 『AI on TOP』基盤の実証：生成 AI をインターフェースとし、誰でも簡単にデータの入手と解析ができる技術基盤を確立

▼新プラットフォームの特徴

日本マイクロソフトとの連携により開発する新プラットフォームは、JAXA での実証成果を基に、以下の機能を実現します。

- Microsoft Planetary Computer Pro との統合：ペタバイト規模の地球観測データへの効率的なアクセスと処理、最新の大規模モデルへの早期アクセスの確立
- グローバル展開を見据えた Azure 基盤の活用：世界中どこからでも安定したサービス提供が可能
- ユーザーインターフェースの拡充：Microsoft Power BI などの他製品とのシームレスな連携による顧客体験から逆算したユーザビリティの向上
- JAXA で実証済みの『AI on TOP』技術の拡張：より多様なデータソースとの連携を実現
- エンタープライズグレードのセキュリティ：機密性の高いデータも安全に扱える環境を提供

▼コメント

■ Microsoft Asia, VP of Digital Natives & Startups, Johnny Tian 氏

株式会社 Ridge-i 様との本取り組みを心から歓迎いたします。衛星データの活用は、災害対策のみならず、農林水産業、運輸、エネルギーなど様々な業界におけるゲームチェンジャーとなり得るキーテクノロジーであると感じております。株式会社 Ridge-i 様の高いデータ処理・解析技術、並びに JAXA（国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構）様との実証実験で培った技術基盤に、マイクロソフトの AI 技術をはじめとするクラウドテクノロジーを融合させることで、衛星データ活用の民主化、高度化に寄与するものと期待しております。

■ 株式会社 Ridge-i 代表取締役社長 柳原尚史

この度、私たちが培ってきた生成 AI 技術と地球観測データの解析 AI 技術が、日本マイクロソフトが保有する Microsoft Planetary Computer Pro および Azure 基盤と連携することにより、さらに高度で実用的な衛星データ利用が可能になるものと確信し、とてもワクワクしております。災害対応だけでなく、地球環境のシミュレーションなど様々な分野への応用や、ユーザーの裾野をグローバルに広げること可能となり、宇宙産業の振興にも役立つものと期待しています。

以上

■ リッジアイについて

株式会社 Ridge-i（東証グロース、証券コード：5572）は、AI・ディープラーニング技術を活用したソリューションにより、経営・社会課題の解決に挑むテックイノベーションファームです。特に、画像解析ディープラーニング、センサーによる異常検知 AI、最適化 AI など様々なデータに対応する AI を組み合わせた「マルチモーダル AI」に強みを持ちます。戦略策定から要件定義フェーズに始まり、現場のコンサルテーションから開発・運用保守まで、投資対効果を実感するまで一気通貫で伴走し、多くの実績をあげています。また社会課題にも積極的に取り組んでおり、SDGs 課題と環境変化を衛星画像から発見する「GRASP EARTH」などで第 4 回から宇宙開発利用大賞を 3 回連続受賞しました。今後とも技術とビジネスの高みを追求し、社会・顧客が持続的に効果を実感できる最高峰のソリューションを提供します。

会社名：株式会社 Ridge-i

設立：2016 年 7 月

所在地：東京都千代田区大手町 1-6-1 大手町ビル 438

代表：代表取締役社長 柳原 尚史

資本金：28,551,500 円

事業内容：

- ① AI・ディープラーニング技術のコンサルティングおよび開発
- ② 共同事業、ライセンス、保守モデル、自社開発等によるプロダクトの提供
- ③ 人工衛星データ AI 分析サービスの提供

URL：<https://ridge-i.com>

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社 Ridge-i 星名、小口

e-mail: pr@ridge-i.com

※Microsoft、Azure、Power BI は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。